

も極めて少ない。したがって1963年にはこの海域の低温化にともなう産卵の時期・場所は変化を余儀なくされ、また生殖腺の発育にも異常をきたしている可能性がある。

その結果これら魚類を通じて1963年級の発生量が低下しているおそれが大きい。今後海洋条件が回復し、1964年以降正常な再生産が続けられれば、資源量が減少傾向を辿るとは云えないが、その回復の保証がない現在、資源量の将来について楽観的な結論を下し得ない。

## 2 異常現象の情報 (太平洋南区)

山中 — (南海区水産研究所)

昭和36年1月頃より水温の低下現象が認められ、昭和38年1月以降はその低下が顕著に認められた。

### (1) 昭和38年2月の表面水温

沖合では、前年に比して $1^{\circ}\text{C}$ 低下、沿岸域では $2^{\circ}\text{C}$ 以上低下し、特に紀伊水道の日和佐沖、土佐湾四万十川口附近、宮崎県都井岬近海では $3^{\circ}\text{C}$ 程低くなっている。

### (2) マイワシ、ウルメイワシの産卵数

昭和25年以降減少傾向を辿っていたが、日向灘では昭和37年11月以降急激に増加し昭和38年度(級)の産卵数は、当部研究開始以来最多数を示している。カタクチイワシの産卵量は目下のところ少ない。

## (異常発死)

### 1. 徳島県

1) 昭和38年1月26~27日、組合(県北地区)の水揚で、異常発死分として、マダイ、グチ、カワハギ等4,000 kg、

2) 比灘でカワハギ(ハゲ)1人当5kg

3) 日和佐でハス、ハゲ、ブダイ、

- 4) 牟岐(出羽島)で、クエ、イシモチが海岸全域にわたって死亡、1人10Kg、1船:60Kg程度の漁獲あり。

紀伊水道域の水温は、例年、吉野川口が低温となるが、本年は水深の浅い地域(甲浦~長浜)が低い。

(ロ) 高知県

- 1) 須崎の定置観測で9°Cまで下り例年はない。
- 2) 須崎湾内でクロダイ異常斃死。巡航船で取上げ。
- 3) 四万十川口でスルメイカ異常斃死。

(ハ) 宮崎県

- 1) 都井岬近辺(旧都井村内)~(都井大敷組合)

魚種、ハゲ(カワハギ)、マツウダイ(マトウダイ?)、キンメダイ、ヘイケンタマ(エビスダイ又はアカマツカサ)、ツノコベ(カワハギ又はウスバハギ)

時期、昭和38年3月9~13日、3月15日現在、半死状態のものが少量みられる。

海況、水温の測定は行なっていないので、はっきりしないが16~17°C位だと思われる(大敷の話)。潮止りの時のように浮遊塵多く、黒ずんだ色(パルプ廃水のようなもの)の汐が数回来た。

斃死量、陸岸に打上げられたもの10貫前後、全域で40%~50%

その他海上に浮遊して、取得されなかつたものが多数あつた。

- 2) 種子島西岸(詳細不明)→(都井大敷組合)

1週間程前に4~5日間、同じ状態があつた由。

- 3) 種子島東海岸(熊野)→(都井大敷組合)

本年度始め頃に同じような現象が見られ、ハゲ浮上死亡したもの

があつた由。

(一) 宮崎県本城地区→(串門地区改良普及員)

上記、都井岬附近にて異常斃死が見られたと同時期頃に磯建網の漁獲物に半死の状態のものが多かつた(死亡したものはなかつた)。魚種はチダイ、ニベ。

(二) 奄美大島、屋久島沖→(南郷地区普及員)

一本釣出漁船が同附近にて瀬魚、ハチ、シビの死亡浮遊していたのを多量にみつけ一部持帰つた者もあるという(日時不明)。

(資料……雨水研延才36号……昭和38年3月26日による。)

### 3 鹿児島県沿岸海況異変

宇田道隆(東京水産大学)

(鹿児島県水試「うしお」才81、82号による)

著低温、高鹹。本年1月以来異常寒波の影響顕著で1月中旬頃から県下各地で(山川湾、阿久根、草垣島、黒島、種子島、屋久島、奄美大島等)魚類の斃死現象をみ、底棲魚が主で、メバル、ベラ、カワハギ、ウツボ等が多い。屋久島1月下旬～2月上旬水温平年より $3.7^{\circ}\sim 3.8^{\circ}\text{C}$ で著しく低温であつた。2月12、13日大島海峡久慈湾でヒレナガ、ハギ、サザナミハギ、ヒフキアイゴ、イツトウダイ、タテジマヤツコ、ブダイ、オオヨロイウオ、フグ類、甲イカ、キントキダイ等約600Kgの斃死浮上を薩南カツオ漁は異常寒波で水温例年にくらべて $2\sim 3^{\circ}\text{C}$ 低く、漁期1カ月ぐらいおくれた。